

TOPICS

機能評価Ver.5 評価項目に 「機種標準化（機種統一）」が追加

機能評価調査項目が来年度よりVer.5にアップし、輸液ポンプ・シリンジポンプの管理に直接関わる項目で機器管理「6.3.2 外来・病棟で使用する医療機器の管理体制が確立している」の項目5.として「医療機器の標準化が図られている」が加わり、機種標準化について述べられています。

(日本医療機能評価機構 自己評価調査票病症複合版Ver.5.0より)

使用機種の混在が原因で起きたヒヤリハット事例もあります。機種を統一する事で使用手順や教育も統一化でき、無駄も省けリスクも回避できます。次々と新しくなっていくポンプをバラバラに採用するよりも、耐用期間毎に同一機種に全面切替した方が、安心してご使用いただけます。



メンテナンス付リースで機種統一事例

A病院の場合

院内のポンプの使用手順見直しを検討。指導する看護師間でも使い方の差があった。そもそも使い方について講習を受けたわけではなく、先輩看護師から病棟現場で指導を受けた看護師が多い。また他の病院から来たり病棟毎に使用ポンプが違ふと操作間に差があった。

そこでメーカーの協力を得て数十名の看護師

の手順を確認し、適切な使い方とその理由について統一操作手順書や、ポンプチェックリスト(下図)を作成。ポンプを全機種統一するに当たってはリースを活用することで新規導入の費用負担を軽減する事ができ、全看護師対象に操作手順研修を実施する事が出来た。



輸液ポンプ最終確認チェックリスト

チェック項目	チェック内容	声だしチェック
1. 氏名	ネームバンドと注射薬	患者氏名 → ()様
2. 刺入部	腫脹 発赤	腫脹 発赤 → なし
3. 薬液名	輸液ボトルと注射薬	薬液名 ()
4. 薬液量	薬液量・残量	輸液量 () ml
5. ポンプ設定値	輸液セット滴数 予定量 流量	()滴/ml用 予定量 ()ml 流量 ()ml/h
6. クレンメ&ワンタッチクレンメ (三方活栓)	位置 開放	クレンメ→下方にあり ワンタッチクレンメ→開放 (三方活栓→開放)
7. ライン	折れ曲がり、ポンプ装着状況	折れ曲がり→なし ライン→はめ込み
8. コンセント	非常用に接続 ACバッテリー表示	赤コンセントに接続 ACバッテリー表示点灯
9. 開始	開始ボタン 動作インジケータ	動作インジケータ点滅(緑)
10. 滴下状態	滴下筒と検知器作動	滴下時→センサー点滅

輸液ポンプチェック終了

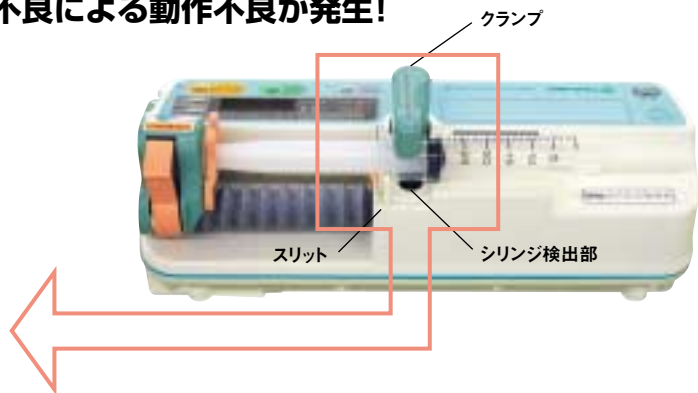
A病院 看護安全委員会作成



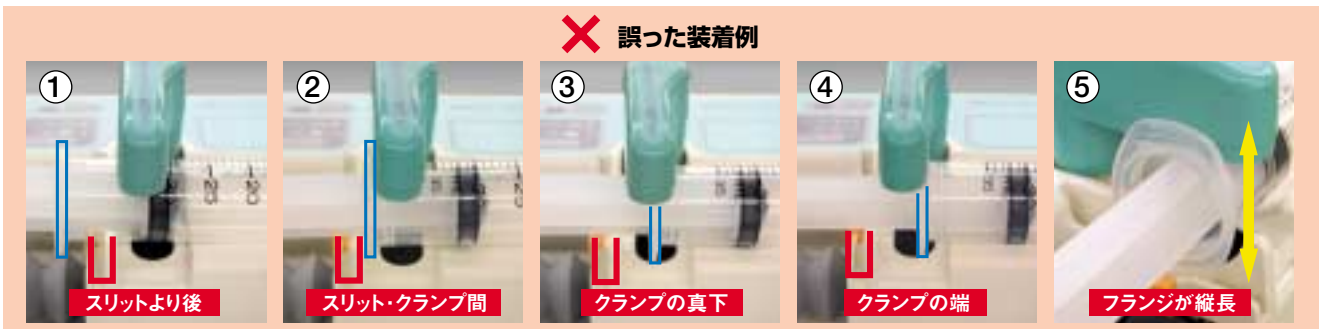
事例1
最近のヒヤリハット事例からシリンジポンプへのシリンジ装着について

シリンジポンプにおいて、シリンジの装着不良による動作不良が発生!

※写真はシリンジポンプの背面側から見たものです。



▼フランジが誤って装着された事例には、下記のものがあります。



▼フランジが誤って装着されると、下記のような不具合が発生する可能性があります。

- ・シリンジサイズが認識されず、開始できない。
- ・シリンジの保持が不十分になり、過剰投与・過少投与になる。
- ・開始はできるが、動作中にシリンジ外れ警報となり、送液が中断する。
- ・残量警報や閉塞警報などの警報機能が正しく動作しない。
- ・シリンジサイズが誤認識された状態で動作してしまい、流量に誤差が生じる。

- シリンジのフランジ部はポンプのスリット(溝)に確実に入れてください。
- 開始前に、早送りを押してプライミングを行ないシリンジの装着状態(フランジ部・押し子部)を再度確認してください。

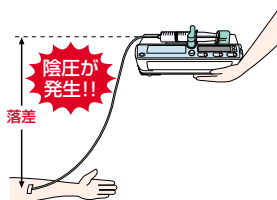
注意!

TE-331S/TE-332Sでは、クランプの下側にもシリンジ検出部(黒いカバー部)を設け、フランジの装着状態を検知する性能を向上させましたが、この部分にフランジが乗り上げた場合(上記写真③、④)や①のフランジが極端にスリットより左に装着された場合は、装着不良を検知できない場合があります。

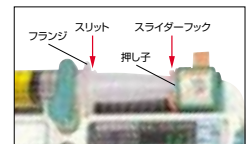


事例2
シリンジポンプを持ち上げる時に注意

患者を移送する際にシリンジポンプを高く持ち上げたら押し子が少し動いた。



押し子とスライダーフック、スリットとフランジには僅かな隙間があります。動作中シリンジポンプは押し子を押しているため隙間はなくなっていますが、ポンプを持ち上げるなど高低差が出来た場合、陰圧が生じてシリンジの押し子は患者側に引っ張られます。僅かな量とは言えボラス注入される事になり、特に手術後の搬送時には患者の容態に影響が出ることも考えられます。



- 搬送時などもポンプと患者の落差が最小になるように注意してください。